霊的成熟に向かって

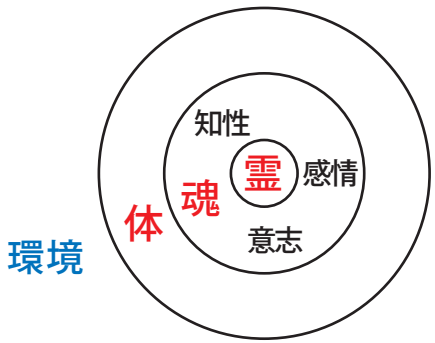
詩篇103:1～5

103:1 わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。
103:2 わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
103:3 主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、
103:4 あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
103:5 あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。

霊・魂・体

1テサロニケ5:23 平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだが完全に守られますように。

霊は、神を意識し、霊を認知。
魂は、自己を意識し、他者を認知。
体は、五感を認知。



本来の人の姿

本来の人は、霊が神を感じて、霊が魂を機能させて神に応答し、魂が体を使って神の御心を行う、という目的で、創造されている。

魂の「肥大化」

しかし、人は最初の人アダム以来、生まれながらに霊が機能不全になっているため、本来的な神との関りができない状態である。

そのため、神から受けるべき供給を受け取ることができなくなっており、その不足を補うべく魂を、高負荷、高回転で機能させ、それを常としている。

いわば魂の「肥大化」が、霊が機能していない人の生きる方法である。

必要なこと

霊に必要なことは、新しく生まれること、そして神さまとの交わりである。

聖書を読むことは神さまに聞くことである。また祈りは神さまとの会話である。賛美は神さまに対する信頼であり、信仰の表現である。

よって私たちは聖書を読み、祈り、賛美することによって霊が成長し、魂中心の人から霊中心、信仰の人と変えられていくのである。

この世の宗教

この世の一般的な世俗宗教においては、立身出世して社会的に評価の高い裕福な立派な人になることであったり、病や精神的苦悩から救われて、平安のうちに、日々、家族や他の人々と平和に暮らせることであったり、さらにある人々においては、倫理的、精神的に高尚、高潔、高徳な生き方をする人間となることであったりする。

しかし、これらはみな、総じて「自分自身の幸福願望の達成」と集約することができる。

成熟する生涯

エペソ4:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。

キリストの満ち満ちた身たけにまで

「キリストの満ち満ちた身たけにまで達する」こと、これこそまさに、使徒パウロがエペソの信徒たちに求めた「クリスチャンの霊的成熟」であった。

私たちクリスチャンにとっては、この地上での信仰生涯を通じて、最後の一息まで、この霊的成熟を求めて生きることが不可欠な必要事なのだが果たして私たちにそんなことは可能なのであろうか。

前のものに向かって

ピリピ3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、
3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

「霊的成熟」は、天に召されるまで完成はないのである。

キリストにあって

「キリストの満ち満ちた身たけにまで達する」という聖なる目標を目指して「全身を向けつつ、……ひたすら走る」、この純粋な生き方の中に、常に無限の成長と祝福が伴うのである。

1テサロニケ5:16～18
いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

私たちは、いつでも喜んでいるとか、絶えず祈るとか、すべてのことに感謝するなんて人間のできる業ではない、そんなのは無理だ、と決め付けがちである。

キリストにあってとは、キリストがそれらを可能にしてくださることを示しているのではないか。

私たちは受けた恵み、祝福を忘れがちであるが、否定的な精神に命じ、良いことをなされる神さまを信頼して祈り賛美し続けよう。